

第9回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成28年1月27日（水）午後2時から午後4時20分
- 2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第二・第三会議室
- 3 出席者 委員18名（欠席18名）
アドバイザー 篠田暢之氏
沼田市 総務部長、市民部長、健康福祉部長、都市建設部長
（事務局：企画課長、企画課長補佐兼企画係長）

4 会議概要

(1) 沼田市第六次総合計画基本構想について

（協議テーマ：農業、林業、商業、工業、観光、都市基盤など）

〈意見等〉

- ・ 戸鹿野橋の架け替え調査に伴う県土木事務所の説明会があった。橋が新しくなり、環状線が整備されれば17号と120号がつながる。今から幹線道路の整備を見据えて、市が発展するための議論ができるような組織を作ったらどうかと思っている。環状線については、都市計画マスタープランに記載がある。整備された道路沿いに道の駅などの施設ができることにより、地域の発展につながってほしいと思っている。
- ・ この会議で出された意見を地域の活性化につなげるためにどのように進めていったらよいかが一番大事だと思っている。そのためには、市民の方が今どう思っているかを知ることが必要だと思い、総合計画のアンケート結果の資料をお願いした。状況を知った上で、考え方や方針なりを示さないと議論が無意味になってしまうのではないかと心配している。私は、この会議で総合計画をつくるということではなくて、情報収集作業を行うとの認識である。アンケートの結果を見て、10代の意見が少ないこと、若い人がこの町に住みたいと思っていないことが気がかりである。

人口が減少すれば地域の活力が低下することになるので、働く場所が必要である。住民登録はあるけれど実際に住んでいない大学生等が多いとの話を聞いた。働き場所がない、交通の便が悪いなど、アンケート結果の状況も踏まえて、私たちの意見をまとめていったらどうかと思っている。
- ・ 以前から「農業の地域内一貫経営」を目指すことを考えていた。農業の専門化が進んだが、逆に異常気象等の影響を受けて対応できなくなっている状況がある。昔の農家は家畜を飼い、色々な農作物を作っていた。このような状況から、横のつながりを持った農業経営ができないかということから、共生と循環をキーワードとして考えた。

[共生について]

・ 農業と商業

街なか再生にもつながることであると思うが、定期的に市（いち）を開いたらどうか。（能登の朝市など）

・ 農業と林業

畜産農家では敷きわらが不足しているため、おがくずを使用している。そこ

で、間伐材を挽いて、おがくずを使用したらどうか。

・農業と工業

例えば、食品関係の工場から排出される豆腐をつくった後に出るかすやりんごジュースをつくった後に出る皮などのかすを家畜の飼料として使用することができないか。りんごを飼料として育てるりんご牛も考えられ、6次化につながる可能性もあると思う。

・農業と観光

最近では、観光バスからレタス畑にお客さんが降りてレタスを1個取って帰る、体験型の観光農業がうけていると聞いている。

[循環について]

畜産家は糞尿を堆肥にしているが、その堆肥の処分に困っている。堆肥を使用した有機栽培として、米農家が堆肥を使用して飼料用米を作り、牛に食べさせ、その牛を沼田ブランド牛として売り出すことも考えられるのではないか。

- ・ リスクヘッジについては、農業だけに言えることではない。多様性を確保し、共同していくことが大切だと思っている。これらが進んでいる地域は成功していると思う。
- ・ 簡易水道の水源確保から感じることとして、山林が間伐されていないため山が荒れている。

アンケート結果によると、市民は豊かな森のイメージを持っているが、実態は異なっている。林業従事者の増加は見込めない。県の森林組合ではチェーンソーの使い方などの無料講習を行っている。地元にも森林組合があるので、そのような事業を行うよう働きかけてもらうことはどうか。若い人は無理なので、特に退職した人に話をして講習会に出てもらう。このような事業を実施するために、関係機関と連携を図っていったらどうかと思っている。

農業については、退職者に従事してもらうことを考えてみてはどうか。

県の農林大学校では、社会人を対象とした農業コース（1年間、定員30名位）を設置している。市も提携した事業を考えたらどうかと思っている

- ・ 私の地区には一般社団法人高平公益社があり、500町歩の山林を保有している。現在90人の社員が維持管理しているが、若者は少ない。県の補助金を活用し、年間3日間くらいの作業を行っている。数年前に渋川に木材センターができたので、間伐材を搬入している。

共有林は整備できるが、個人の山林は荒れ放題になっているのが実情である。

- ・ 農業、林業、商業、工業、観光、都市基盤のテーマについては、単独でなく全体がつながっていくことがよいと思っている。今は観光がブームになっている。海外からは、円安や2020年のオリンピック開催に向けた効果もあり、外国人観光客（インバウンド）が増加している。観光は今後伸びてくると思っている。真田丸ブームに関しては、今からでは新たな事業は間に合わないと思うが、まだまだ、方策はあると思う。

今後は、拠点整備の必要性を感じている。沼田インターから市街地へ誘導する方

法、沼田公園・運動公園の整備、既存の望郷の湯の拡張整備、老神温泉の活性化など、官民一体で整備していくことが必要ではないかと思っている。

また、森林文化都市のシンボルとして、県立森林公園21世紀の森の整備活用をしたらどうかと思っている。今まで開催していた音楽祭はなくなった。前橋では自転車レースで人を呼んでいる。21世紀の森を拠点として、玉原、迦葉山エリア等でトレイルランニングを計画したらどうか。健康志向の高まりから森林整備を行うのも一つの手段ではないかと思った。

(協議テーマ：コミュニティ、行財政運営、市民協働、男女共同など)

- ・ 生方記念文庫がオープンし、旧沼田貯蓄銀行が建設中である。文化財施設として活用するだけではなく、空きスペースを地域住民が活用できる方法も検討していただきたいと思っている。切り絵館は、持ち主の意思で市に寄贈したいとの申し出があるようだ。生方記念文庫では、名誉市民の連続講座を開催している。ハードとソフト両面から施策を進めていくことで、地域の人々の関心を広めていくことが必要だと思っている。真田丸のドラマ展もその一つであると思っている。

沼田公園を城址公園にしたらとの提案があるようだが、公園内に信之と小松姫の石像が建立された。ハードとソフトの両面から施策を展開していくことにより、新たな人の流れができていく。明るい期待が持てるのではないかと思っている。

- ・ 市民協働について発言したい。富士宮市の認知症キャラバンの取組をテレビで観た。認知症本人・家族の対応について、市民協働の取組、コミュニティができて、そこに行政が関わる仕組みづくりができればよいと思った。市民の力、ボランティアが集まればよいが、先程話が出たように人が集まらない分野がある。

また、都市からの移住を考えた時に、都市と沼田の共生、ボランティア活動をしてもらいながら沼田に住んでもらう。そのきっかけづくりができればよいと思った。

都市から若者を集める方法として、ボラバイト（ボランティア・アルバイト）がある。ボランティアについては無償ではなく、インセンティブを持たせる方法の必要性も感じている。

行財政運営について、人口減少と比例して予算も少なくなる。古い事業と新しい事業のバランスを取る。古い事業を整理する必要があると考えている。何を整理するのが難しいと思う。

- ・ 認知症にやさしいまちづくりネットワーク協議会の活動は承知している。徘徊者の保護がメインになっている。認知症になった人が認知症の進行状況に応じて、うまく生活していけるような仕組みづくりが必要と思っている。

事業の見直しについては、古い事業が止められないのが問題であり、全部さらけ出して判断してもらえないと思っている。

- ・ みなかみ町では、地域活性化を目指して民間人だけの組織を設置したと聞いている。調べておいていただければありがたい。
- ・ 時代とともに地域コミュニティが縮小してきている。

事業の見直しについて、古い事業が止められないことに関連して、消防団員が不足していることにより大変苦勞している状況があるので、事業の見直しは必要であると思っている。

茨城県常総市の災害復旧ボランティアとして参加した経験から話すと、ボランティアとして駆けつけた人たちは、困っている人を助けるために集まったにもかかわらず、どうしたらよいかわからない。一方、被災した人はどこに助けを求めたらよいかわからない状況であった。行政と民間とマッチングできるシステムやコミュニティがあればよいのではないかと実感した。

また、公民館は、コミュニティ形成の場として必要な場所だと思っている。

- ・ 認知症の対応については、市は手厚いと感じている。今後は、認知症予備軍の方へ周知する方が実践的であるような気がする。
- ・ 認知症の人は、今後ますます増加すると予想できるので、周知が必要との意見はそのとおりだと思う。
- ・ 老人クラブも民生委員と協力して、見守りをしようという精神で活動している。

(2) その他

次回の会議は、2月17日（水）午後2時から沼田市役所北庁舎第二・第三会議室で開催。